



ごきげん
よう

川崎ゆきお

「今年もまた暑い夏がやってきましたなあ」

「去年も言ってましたが」

「まあ、例年の如く」

「如くですか」

「いやあ、まあ、他に言うことがないので、適当です」

「しかし、熱中症なんかで倒れたら大変でしょ。重要なことですよ。暑いというのは」

「そうですねあ。冬、寒くて部屋で凍え死んだというニュースはあまり聞きませんが、部屋の中で熱中症で倒れた話はよく聞きますよ」

「正月、餅で喉を詰まらせたとかもね」

「まあ、若いときは関係のない話として、気にもかけていませんでしたが」

「正月の餅、夏の熱中症、これは大きなポイントです。注目ポイントです」

「本気ですか」

「今年の元旦、餅を食べましたが、気になって、気になって」

「ほう、雑煮で」

「その方が柔らかいですから、噛みやすい。それで、餅も小さく口に含んで、少しずつ喉に持っていくようになりましたよ。よく延びる餅は怖い。切れが悪い奴はね。飲み込むか飲み込まないか間のところで、紐を入れたが如くなる」

「如くねえ」

「食道へ持っていくか、戻すか、迷うところです。どちらも力が必要です」

「目を白黒させながら」

「はい、そうです。飲み込むのなら一気です。これは力みますよ。まあ、戻した方が安全なのか、飲み込んだ方が安全なのか、判断しかねます」

「どちらにします？」

「状況と食欲にもよります。気弱なときは戻します。しかし、引っかかると厄介だ。戻そうとしておきながら、また飲み込もうとする。これは少し勢いが弱い。だから、飲み込むのなら最初から飲み込むべきなんだ。引いちゃだめ。中途半端に」

「飲み込みの悪い人って、どうなんでしょう」

「喉やポンプの問題でしょうなあ」

「いやいや、話の飲み込みが悪い人がいるじゃないですか。あれは、飲み込み損ねて、引っかかるのが苦しいためなんでしょうなあ」

「ああ、そっちの話ですか。よく分かりません」

「飲み込むには力がある。勇気もね」

「理解力の問題じゃないですか。話の場合は」

「胃に落ちてからも、消化しきれないで、胸焼けするとかもありますなあ」

「よく嚙まないで飲み込むからですよ」

「消化も吸収も難しい。上げるか下すかでしようねえ」

「汚い話にきましたねえ」

「喉の手前は歯や舌ですなあ。これらも比喻が多い。嚙み砕いて話すとかね」

「ありますねえ、いろいろと」

「例えば？」

「歯がゆいとかも」

「ああ、ありますなあ。生理的な間隔は大事なんでしょうなあ。分かりやすい」

「それより、暑いのは大丈夫ですか。今日あたりから、猛暑かもしれませんよ」

「暑さと肉体箇所との関係、何かありますか」

「消化器系ではなく、皮膚系じゃないですか」

「暑苦しい話ってのもありますよ。寒い話も」

「皮膚も大事ですねえ」

「そして、体も大事です」

「お互い気をつけましょう」

「はい、ごきげんよう」

「はい、お達者で」

了